

- 1 . 我が国宇宙産業の競争力強化を通じたサプライチェーン強化に 関する調査研究

Research on Supply Chain and Competitiveness of Space Industry

キーワード	宇宙開発、宇宙産業、サプライチェーン
Key Word	Space Development, Space Industry, Supply Chain

1. 調査の目的

2008 年5月に成立した宇宙基本法では、基本理念の一つとして産業の振興をかかげている。しかしながら、我が国宇宙産業の国際競争力は依然として十分ではなく、商業受注、海外受注を確保できていないためにサプライチェーンの維持に支障をきたす等、深刻な問題が生じている。

こうした認識の下、本調査では、我が国宇宙産業の競争力を強化するために政府が取り組むべき課題について検討を行う。その際、サプライチェーン強化のために高い技術力を持つ中小企業の能力を活用する方策についても併せて検討する。

2. 調査研究成果概要

(1) 調査の内容

- 我が国宇宙産業の国際競争力に関する現状分析
- 先進的宇宙システムの具体化に関する検討
- サプライチェーンの強化

(2) 結果概要

我が国は世界で4番目に人工衛星と打ち上げロケットの双方を確保したが、我が国の宇宙分野における国際競争力は、残念ながら限定的であると言わざるを得ない(図1)。衛星の海外受注は1件、ロケットに至っては単独の打上げ受注の経験はない。いわば、日本が宇宙から撤退したとしても、世界の誰も困らない、という状況にある。その原因の一つとして、我が国の宇宙開発においては、将来の有人化を視野に入れて、「大きなシステムを安定的に利用するためのシステム開発」という前提が暗黙裏に存在してきたと考えられる。それが故に、ユーザを開拓する視点が失われ、コストや性能面での遅れを取ってきたのではないかと思われる。

しかし、世界を見渡すと、ミッションと性能がギリギリ折り合う形で、小型化・低コスト化が追求されている。この背景には、ベンチャービジネスの興隆、新興国の参入が上げられよう。この動きが、開発途上国を含めて世界的な新たな宇宙システムを保有する動きへとつながってきている。今日、宇宙システムを保有することは、それほど特別なことではない。

我が国が世界的な競争力を取り戻すためには、まずこのような世界的な視野をもって、我が国の宇宙開発の思想を一から見直すべきと考える。

本レポートでは、先進的宇宙システムとして、ユーザ目線の宇宙システムとして、Space On Demand という名称を与えて議論を行った。

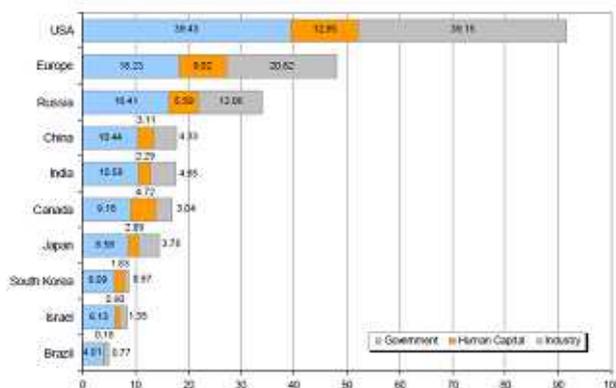


図1 2008年宇宙競争力指標の国別比較
(出所: Futron s 2008 Space Competitiveness Index)